



水道山記念館（旧配水事務所）

水道山公園のシンボリックな建物である桐生市水道山記念館は、昭和5年から7年にかけて行われた水道布設事業により「配水場事務所」として建設されたものである。当時の市予算の五倍をかけ、産業都市桐生の新たな市民生活を見据えた大事業だった。元宿町に浄水場を建設、金比羅山と呼ばれた丘陵地に低区配水池、その上部に高区配水池、隣接して建てられたのが「配水場事務所」である。直線を強調した外観、外壁のスクラッチタイルが美しく、特に平面形式、木造タイル貼りの構造、スペイン瓦などに大きな特徴がある。昭和47年に配水場事務所としての役割を終了した。

昭和60年から61年にかけて改修工事を行い、名称を「桐生市水道山記念館」と改めた。記念館は現在、市民に開放され、会議や催し物、登山者の休憩などに幅広く利用されている。

金比羅山、雷電山と呼ばれた一帯は水道山という通称で親しまれ市民の憩いの場となっている。印象深いのは高区から低区配水池に下る坂道、急勾配の真っ直ぐな道、低区から宮前町に至る坂道も同様に、水道山にはなくてはならない風景だ。この風景に魅了される人も多いが、道の下には配水本管が通っている。先覚者たちが築いた水道事業は市民に豊かな風景を残している。

（水道山記念館の開館時間は午前9時～午後5時、休館日は月曜日・火曜日）

産業都市建設のシンボル
市民に開放し幅広く活用

- 住所：桐生市堤町一丁目5-7
- 電話：0277-44-5257
- 国登録有形文化財・2007わがまち風景賞